

宮町遺跡第 31 次現地説明会資料

日 時 平成 15 年 11 月 16 日(日曜日)

1. 調査地 滋賀県甲賀郡信楽町大字宮町
2. 調査主体 信楽町教育委員会 教育長 藤井 克宏
3. 調査指導 紫香楽宮跡調査委員会
委員 長 小笠原 好彦 滋賀大学教育学部教授
副委員 長 櫻井 敏雄 近畿大学理工学部教授
" 栄原 永遠男 大阪市立大学大学院文学研究科教授
委 員 高橋 誠一 関西大学文学部教授
" 黒崎 直 富山大学人文学部教授
4. 調査担当 信楽町教育委員会教育委員会 文化財調査室
5. 調査位置 調査地は、平成 12 年度の発掘調査を実施した第 28 次調査地の西側にあたり、奈良時代の遺構配置では朝堂院(ちょうどういん)の西脇殿よりもさらに西に位置します。
6. 調査の概要

今年度の調査は、1050 m²を対象に 4 月から発掘調査を実施し、奈良時代から中世にかけての柱跡や溝跡を多数検出しました。

紫香楽宮に関連した主な遺構として、掘立柱建物跡 2 棟と溝 1 条、都の造営で埋め立てられた谷があります。また、竪穴住居 1 棟を確認しました。

建物 ... 桁行^{けん} 5 間 (14.8m) × 梁行 3 間 (5.8m)

トレンチ中央で確認した東西棟の建物で、朝堂の西脇殿から 14.8m 西に位置します。

桁行の柱間寸法は 3m 弱(10 尺)、梁行は 1.9m 弱(6.5 尺)を測り、柱掘形は一辺約 1.0m の隅丸方形を呈し、柱はほとんどが抜き取られていました。この建物の方位は座標北から西に少し振れますが、朝堂を構成する遺構群の方位に近似しています。

建物 ... 桁行^{けん} 1 間以上 (2.9m) × 梁行 3 間 (6.2m)

トレンチ北東隅で確認した掘立柱建物で、柱掘形の配置状況から桁行 5 間 × 梁行 3 間の規模と推定されます。

桁行の柱間寸法は 3m 弱(10 尺)、梁行寸法は 2m 弱(7 尺)を測り、柱の掘形は一辺約 1.2 m、柱は、すべて抜き取られていました。

この建物は、建物 との棟間距離が 23.7m (80 尺)を測り、整数値の倍数距離であること。また建物位置が建物 とほぼ並行に配置されていることから、建物 と対になって同一の区画内に配置された建物と考えられ、建物 に比較して柱掘形の規模が大きなことから、より上位の建物と考えられます。

溝 ... 検出長 18m ・ 幅 2.2m ・ 深さ 1.1m

トレンチ西北で検出した溝で、朝堂中軸線から西へ 93m (約 314 尺)の距離に位置します。また溝の方位は座標北より西に少し振れ、朝堂を構成する遺構群の方位に近似していません。

溝からは紫香楽宮期の須恵器杯蓋、土師器杯身や甕が出土し、埋土の堆積状況からは人為的に埋め立てられた様子が伺われます。

溝の断面形態や朝堂中軸線との位置関係から、単なる排水路でなく、区画施設に伴う溝跡の可能性が考えられます。

谷 ... 検出長 10m ・ 幅 10m

これまでの発掘調査で見つかった紫香楽宮造営に伴う整地で埋め立てられた浅い落ち込

みの延長です。

竪穴住居 ... (SH31043) 南北 4.6m × 東西 3.8m

建物 と建物 の間で見つかった住居跡で、中央には炉と思われる円形の焼土が認められますが、遺構の残存状況が悪く、深さは 0.1m しか残っていませんでした。

7. ま と め

今回の調査では、朝堂院の西限を区画する塀跡が未確認のため東西幅を確定することはできませんでしたが、2棟の建物(建物 ・ 建物)を確認したことで、紫香楽宮の造営状況を知る上で新たな手がかりを得ることができました。

聖武朝に宮があった他遺跡の場合、平城宮や後期難波宮の朝堂院の東西幅が 600 尺、恭仁宮で 420 ~ 450 尺であることから、紫香楽宮の場合も今回の調査地で区画施設が確認できるものと調査当初段階では考えていました。

しかし、現時点の調査で区画施設と考えられる明確な遺構が確認できず、建物跡が見つかったことで、紫香楽宮中央部の建物配置は類例のない独自のものであった可能性が考えられます。

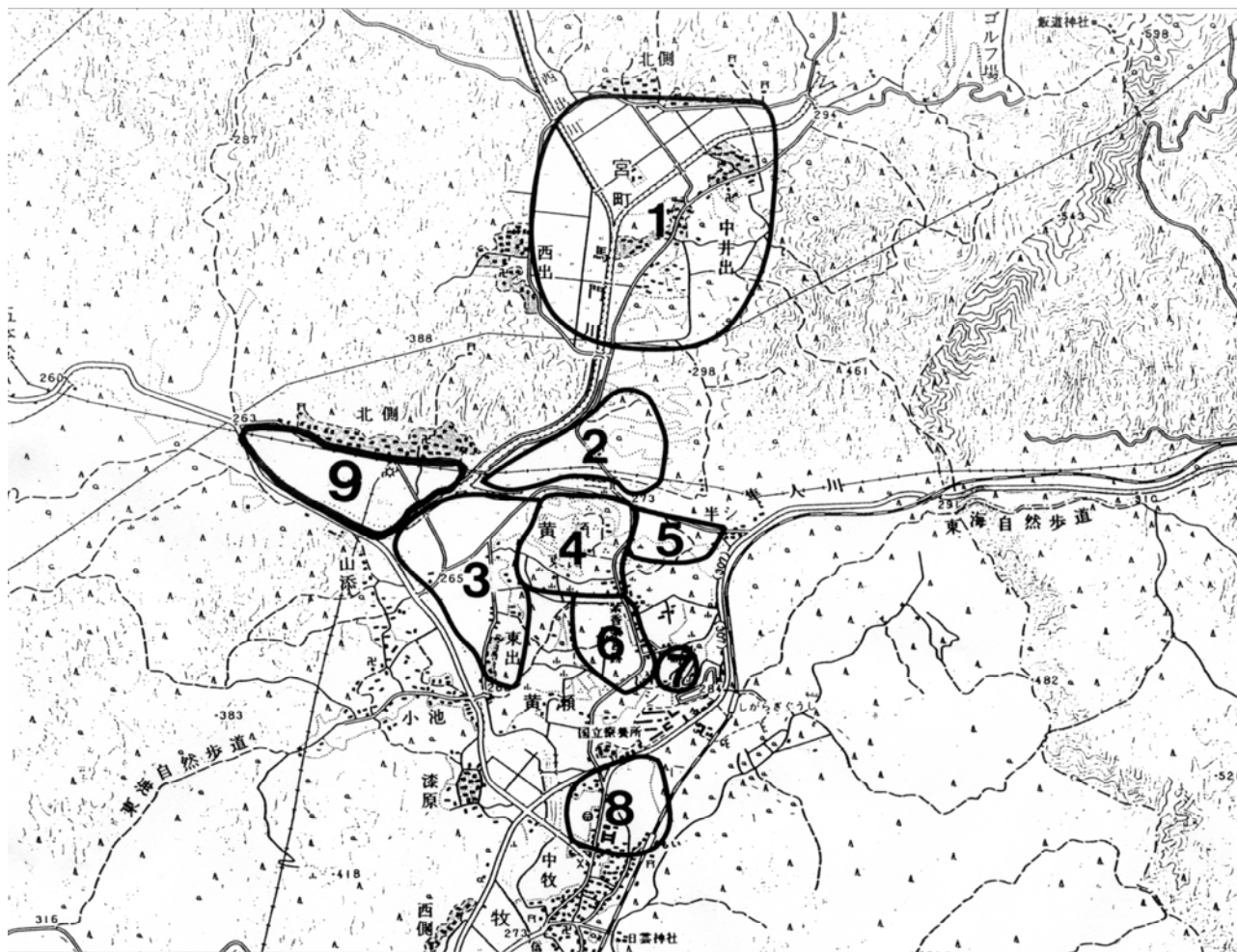
今回確認した建物の立地場所を朝堂院付近の遺構群との比較で検討すると、朝堂院の造営プランと同一の計画に従って造られたことが伺え、紫香楽宮の建物配置には高い計画性があったようです。

今回確認した2棟の建物は、朝堂を構成する建物群(建物 ・ 東・西脇殿)とは規模に隔たりがあること。また、西脇殿のさらに西に位置することから朝堂を構成する建物群とは異なる用途に使用されていたことが考えられます。

しかし、一般的な役所の建物配置である東西棟と南北棟建物の組み合わせが認められないことや時期差が存在する可能性を含め、(今回の調査では遺構の重複関係が認められませんが)その性格についてはさらに周辺を調査した上で検討を進める必要があります。



宮町遺跡第 31 次調査調査地全景 (南から北を望む)
(手前が建物 ・ 左奥の黒い部分が紫香楽宮造営に伴い埋め立てられた谷)



紫香楽宮関連遺跡の分布 (S=1/25000)

- 1 宮町遺跡 2 新宮神社遺跡 3 東出遺跡 4 東山遺跡 5 鍛冶屋敷遺跡
 6 史跡紫香楽宮跡 7 東出西遺跡 8 雲井遺跡 9 北黄瀬遺跡



宮町遺跡調査位置地図(S=1/5000)

